

二元の限界 — 何を以つてか枉がれるを直さん — (二版)

昔は不思議を畏れたり。畏れを擬人化、神とした。自然に神々大勢あらん。依るべき神が複数あれば、都合に見合う神もあり。戦争平和も神のもと。

神話の時代

人は勝手をしがちなり。勝手をすれば周りが困る。それを制する方法たてた。恐れを用いて治めるか、掟守らせ罰にて制す。恐れや罰が過ぎるなら、神に縋りて救い受く。一つの神と契約すれば、かくして統制成し遂げる。中世、人は不自由ならん。

聖俗の補完関係

ルネッサンスに科学起ち、神への畏れも解き放つ。自由を世法で判しても、正義や慈善に慢心し、世智弁聡にて抜け道探し、力で満足勝ち取らん。世法は二元、孝は無し。諸縁に四恩を自覚して、慚にて制し、行にて報いん。

独善・実利優先・テロリズム

宮城県大崎市 瑞川寺住職 木村謙文